

平成30年度 山形美術館事業計画書

- 企画展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
ジョルジュ・ルオー展 - パナソニック 汐留ミュージアム コレクション -	山形美術館はフランス近代絵画を主要なテーマの一つとして、多くの優れた作品を収蔵・展示してきた。本展では、黒の線描と鮮やかな色彩で独自の絵画世界を描き続けた、20世紀フランス絵画の巨匠、ジョルジュ・ルオー（1871-1958）に焦点を当てる。 人間が抱える苦しみや悲しみを、宗教的テーマや道化師など困難な状況にある人びとを描きつづけたルオー作品は今日でも多くの人びとを魅了している。質の高いルオー・コレクションで知られるパナソニック汐留ミュージアム（東京）の所蔵品から約120点で構成し、初期から晩年までの70年にわたる画業を紹介する。 ルオーやルオーと交友があったドガ、ルノワール、フォービズムのマティス、マルケ、ヴラマンク、そしてルオーが造形上の感化を受けたセザンヌやロダンなど、当館の「服部コレクション」「吉野石膏コレクション」の作品と併せて鑑賞することで、フランス近代絵画の流れと20世紀以降の多彩な表現の魅力への理解を深める機会とする。	4月5日(木) - 5月13日(日)	一般 1,200円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜と5月5日「こどもの日」は中学生以下無料
		7月20日(金) - 8月26日(日)	
世界の 巨匠たちが 子どもだったころ	本展は、おかざき世界子ども美術博物館（愛知県岡崎市）の所蔵品から、世界を代表する巨匠たちが子どもだった頃に描いた作品、約120点を厳選して紹介する。10代ですでに卓越した写生力や色彩感覚をうかがわせる作品、あるいは形式や技法にこだわらず、絵を描くことに対するひたむきさが感じられる作品は巨匠たちの原点ととらえることができるだろう。 おかざき世界子ども美術博物館は開館以来「子どもたちの創造意欲を高める作品」「子どもたちに芸術の世界を身近に感じさせる作品」「子どもたちの国際的視野を養うことのできる作品」をコンセプトに作品収集に努め、鑑賞と創作活動が一体化した参加型ミュージアムの活動を行っている。 本展では、自分と同じ年代に制作された美術家たちの作品鑑賞を通して芸術の多様な世界を身近に感じると同時に、「見て、考えて、作る」ワークショップなどを実施する。新しい時代を切り開いていく子どもたちの既成概念にとらわれない自由な発想や創造力を豊かにする機会とする。	7月20日(金) - 8月26日(日)	一般 1,000円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜は中学生以下無料

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
ふるさとの風景	山形県は峻巖な山々と、山間を水源とする川、そして川沿いに開けた平地と日本海を有し、豊かな自然に恵まれていることから、その風土も多様な様相をみせ、これまで多くの作品の題材となってきた。庄内地方の伝統芸能「黒川能」をテーマに制作を行う日本画家・能島和明の絵画を紹介するとともに、さまざまな視点で自然・風土をテーマにした作品を展示し、ふるさとの魅力を紹介する。	10月12日(金) - 10月28日(日)	一般 800円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料

- 3県展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第73回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招き、入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示公開する予定。併せて第60回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	9月1日(土) - 9月17日(月・祝)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
第43回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し、中央でも活躍している県書壇の重鎮による合同審査を行う。昨年は600点を越える応募があり、その中から厳選して優秀作をおよび入選作を決定した。上位入賞者の中には本展を足がかりに中央展で活躍する者もあり、県書道界の現時点の力量と将来への展望を示す展覧会となっている。	9月22日(土) - 9月30日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
第53回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家に審査を依頼して入選を決めたうえ、その中から入賞、準入賞、努力賞を選んで表彰する。近年、公民館や生涯教育のなかで写真教室が人気を集めるなど、カメラを手にする人が増えており、本年も2,500点を超す応募作品が予想される。	2月21日(木) - 3月24日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料

- 収蔵品によるテーマ展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
吉野石膏コレクション ・服部コレクション 響きあうフランス絵画	当館収蔵品のなかで、1992年より吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団から寄託を受けている「吉野石膏コレクション」は、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、きら星のごとく優品が揃っている。また、1985年に収集された「服部コレクション」は日本人にとっても馴染み深い、ピカソ、ルオー、シャガールといった巨匠から、戦後のフランス画壇を代表する作家たちの作品で知られる。この2つのコレクションから、19世紀のバルビゾン派から印象派を経て20世紀の多様な表現にいたるまで、フランス絵画の魅力を紹介する。	6月5日(火) - 6月24日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
寄贈50周年 長谷川コレクション展	1968年、山形銀行の長谷川吉郎会長より同家歴代が収集した美術品が寄贈されてから、2018年で50年となるのを記念して開催する。この時寄贈されたコレクションは、重要文化財の与謝蕪村「奥の細道図屏風」を含む日本美術の名品163点であり、それまでまとまったコレクションを有していなかった山形美術館にとって非常に意義深い出来事であった。 1995年、現当主の長谷川吉茂氏より7点の県指定有形文化財を含む48点の寄贈を受けたことで、江戸から明治にかけて、狩野派、文人画、円山四条派を系統的にたどることのできる内容となっており、質実ともに一層充実したコレクションとなっている。 寄贈50周年を記念し、コレクションの中から名品を選びすぐって展示することで、(山)長谷川家のご厚志に対して深く感謝の意を表すとともに、近代日本美術の魅力を紹介する機会とする。 併せて、2019年に寄贈25年となる(谷)長谷川家からの美術品の特別展示を行う。	12月6日(木) - 1月27日(日)	一般 800円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料

- 収蔵品展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	収蔵品展 「新収蔵品展」 11月7日-11月18日 常設展 「巨匠の広場」/「吉野石膏コレクション-珠玉のフランス近代絵画」/「新海竹太郎・竹蔵彫刻展示室」/ 「長谷川コレクション記念展示室」/「彫刻の小部屋」	年間通し	一般 500円 高大生 300円 小中生 100円 ※収蔵品展によっては料金の変更あり ※土曜は中学生以下無料